

以下のスライドの著作権等について

- 以下のスライドは2021年2月26日金曜日にオンラインで開催された日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究集会（JELES-51: 2021）：オンライン学習における学生間のインタラクションでの発表に使用した内容の一部です。
- スライドの内容は、今後随時変更されることがあります。
- すべての無断複製を禁止します。
- 以下のスライドの著作権・使用許諾条件・掲示責任者・連絡先などについては
<http://www.f.waseda.jp/harada/copyright-j.html>をご覧ください。

謝辞：関連研究の実施にあたり、以下の科研費の支援を得ています。

- **基盤研究(C)：課題番号18K00846**
雇用現場で求められる実用的英語スピーキング能力とは何か？：探索的研究
研究代表者：鍋井理沙・東海大学
- **基盤研究(C)：課題番号16K02946**
英語コミュニケーションにおける統語的プライミングを利用した統語処理の自動化促進
研究代表者：森下美和・神戸学院大学
- **基盤研究(B)：課題番号15H03226**
日本人英語学習者のインタラクション（相互行為）を通じた自律的相互学習プロセス解明
研究代表者：原田康也・早稲田大学
- **科研費基盤研究(B)・課題番号：15H03226**
日本人英語学習者のインタラクション（相互行為）を通じた自律的相互学習プロセス解明
研究代表者：原田康也・早稲田大学
- **基盤研究(A)：課題番号26244031**
学習による気づき・注意機能および相互的同調機能と第二言語情報処理の自動化プロセス
研究代表者：横川博一・神戸大学
- **基盤研究(B)：課題番号21320109**
属性付与英語学習者発話コーパスの拡充と分析：大学新入生英語発話能力の経年変化調査
研究代表者：原田康也・早稲田大学
- **科研費基盤研究(A)：課題番号21242013**
外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動化プロセスの解明
研究代表者：横川博一・神戸大学
- **基盤研究(B)：課題番号18320093**
学習者プロファイリングに基づく日本人英語学習者音声コーパスの構築と分析
研究代表者：原田康也・早稲田大学

謝辞：関連研究の実施にあたり、早稲田大学特定課題研究の支援を得ています。

- 研究基盤形成：課題番号2020C-029
自律的相互学習：やり取りを楽しみながら談話力を高める英語学習方法の開発と検証
- 研究基盤形成：課題番号2019C-023
インタラクション（相互作用）を通じて談話力を高める英語学習方法の検討
- 基礎助成：課題番号2018K-024
日本人英語学習者の自律的相互学習におけるインタラクションデータ分析手法の研究
- 基礎助成：課題番号2017K-027
研修・留学等がもたらす行動変容・認識変容に関する効果測定指標の認知科学的検討
- 特定課題B：課題番号2016B-022
日本人英語学習者の疑問文産出能力：現状調査と形態統語処理自動化による運用能力向上
- 基礎助成：課題番号2016K-028
英語疑問文構築のための形態統語処理能力の現状調査と向上訓練
- 基礎助成：課題番号2015K-025
言語処理短期記憶の強化による英語処理の自動化と運用能力向上の実証
- 特定課題B：課題番号2014B-037
言語知識の定着と自動化による運用能力向上のための自律的相互学習環境の実証研究
- 基礎助成：課題番号2014K-6018
日本人英語学習者のリスニングと統語情報処理の自動化に関する心理言語学的研究
- 研究奨励費
学習者プロファイリングに基づく日本人英語学習者音声コーパスの構築と分析
- 一般助成：課題番号2005B-022
英語教育高度化に向けた学習者プロファイリングとマルチモーダル学習者コーパスの研究

SF の予見性

原田康也 (早稲田大学)

SF の予見性

- gadget の予見が本質ではない。
- 社会状況の予測が本質ではない。
- 不条理な世界の描写が現実社会の本質を反映することがある。
- 理解不能な細部が何ごとかを示唆することがある。

2021年2月26日金曜日 18:05-18:35

暗闇のスキヤナー

～授業のマルチモーダル記録と オンライン試験のスコア比較～

日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究：
オンライン学習における学生間のインタラクション

森下美和（神戸学院大学）・加藤直人（明治大学）・
Hiroshi Sato (Ardor Learning Inc.)・原田康也（早稲田大学）

応答練習

- 1クラス20～30名程度
- 1グループ3名で応答練習
- 毎週20～25分程度
- 2006年度秋学期からビデオカメラ1グループ1台
- 2016年度からアクションカメラ1人1台
- 2018年度秋学期から Theta V + TM-1 + ミニ三脚
- Theta V のデータコンバートにほぼリアルタイム
25分×10台×30週
- Theta V のデータ確認に最低限リアルタイム
25分×10台×30週

授業時間と作業時間

- 学期中の授業時間は週6コマ90分で週540分
- 収録時間は週6コマ30分10グループとして週1,800分
- データコンバートに少なくとも1,800分
- 視聴に少なくとも1,800分

これまでの関連発表

- 原田康也・森下美和・鈴木正紀・横森大輔・遠藤智子・前坊香菜子・鍋井理沙・桑原奈な子・山田寛章・河村まゆみ、「自律的相互学習の記録と分析からインタラクションの楽しさへ：外国語としての英語自動処理の難しさを超えて」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学8号館303/304/305会議室, 2019年3月18日.
- 原田康也・桑原奈な子, 「360度全天球カメラ RICOH Theta V と 3Dマイクホン audio-technica TA-1 を応答練習の収録に利用する試み」, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第49回年次研究集会：教えない教え方, 日本英語教育学会・日本教育言語学会主催, 早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階303/304/305会議室, 2019年3月3日.
- 原田康也・桑原奈な子・河村まゆみ・森下美和, 「相互作用の記録と分析からインタラクションの楽しさへ」, 2018科研費合同研究集会@早稲田大学：言語環境・言語景観と言語学習・言語習得, 早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所主催, 日本英語教育学会・日本教育言語学会・日本ビジネスコミュニケーション学会共催, 早稲田大学, 2018年12月16日.
- Yasunari Harada & Miwa Morishita, "Gaps in Education: discrepancy in knowledge vs performance," The 16th Asia TEFL International Conference and The 6th Hong Kong Association for Applied Linguistics Conference and The 1st Macau Association for Applied Linguistics Conference, University of Macau, Macau SAR, 2018年6月29日.
- Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Diversity of Tests and Test Scores of Japanese Learners of English," 53rd RELC International Conference: 50 Years of English Language Teaching and Assessment? Reflections, Insights and Possibilities, SEAMEO Regional Language Centre, 2018年3月12-14日.
- Yasunari Harada, Lisa Nabei & Miwa Morishita, "Positive Impact of Intrusive Recording Devices on Foreign Language Learning," 53rd RELC International Conference: 50 Years of English Language Teaching and Assessment? Reflections, Insights and Possibilities, SEAMEO Regional Language Centre, 2018年3月12-14日.
- 原田康也・森下美和・鈴木正紀, 「多様な英語力の測定」, 日本認知科学会第34回大会, 金沢大学, 2017年9月14日.
- Masanori Suzuki, Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Application of Speech and Language Technology in Language Assessment," Joint Postgraduate Student Symposium on Language, Culture and Cognition Cum JWLLP-VariAMU Joint Workshop, 香港理工大学, 香港, 2017年4月9日.
- Yasunari Harada, Miwa Morishita & Masanori Suzuki, Learning to Communicate in English through Interactions: Promoting and Prompting Japanese University Students to Ask and Answer Questions in English, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第47回年次研究集会 (JELES-47) 日本英語教育学会・日本教育言語学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2017年3月5日.
- 鈴木正紀・森下美和・原田康也, 「日本人大学生の英語知識と運用能力：言語知識と4技能の測定」, 第119回次世代大学教育研究会・英語教育の国際化研究会, 主催：次世代大学教育研究会・共催NPO法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所・情報コミュニケーション学会・教育の国際化研究会, 早稲田大学8号館, 2016年7月2日.
- 鈴木正紀・森下美和・原田康也, 「言語技術の言語評価への応用：多様な英語能力の測定」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 小樽商科大学, 2016年6月3日.
- Masanori Suzuki, Miwa Morishita & Yasunari Harada, "Application of Language Technology to Language Assessment measuring different aspects of language proficiency of Japanese learners of English with different automated tests," Spring Joint Conference of English Linguistics Society of Korea and Korean Society for Language and Information, Kyung Hee University, Seoul, 2016年5月28日.

これまでの関連発表

- 原田康也・森下美和, 「ウェアラブルカメラは何を視るか? : 日本人英語学習者のインタラクション (相互行為) を通じた自律的相互学習プロセス解明を目指して」, 第116回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, 長崎大学ICT基盤センター・NPO法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会共催, 長崎大学ICT基盤センターセミナールーム, 2016年4月16日.
- 原田康也・森下美和, 「街場の言語科学: 芸術思考とデータサイエンス」, 第115回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, 東北芸術工科大学創造性開発研究センター・NPO法人学習分析学会・明治大学サービス創新研究所・早稲田大学情報教育研究所・情報コミュニケーション学会・芸術思考研究会共催, 東北芸術工科大学 デザイン工学実習棟A (通称: プロダクトの実習棟) 1F, 2016年3月24日.
- Yasunari Harada & Miwa Morishita, "Promoting and Prompting Japanese University Students to Ask Questions in English Classes," the 51st RELC International Conference on Teaching Literacies: Emerging Pathways and Possibilities in Language Education, 15th March, 2016.
- 山田寛章・森下美和・原田康也, 「日本人英語学習者のインタラクション (相互行為) を通じた自律的相互学習プロセス解明を目指して: アクシオンカメラ・ウェアラブルカメラの選定と運用」, 日本英語教育学会第46回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2016年3月12-13日.
- 原田康也・鈴木正紀, 「多様な英語能力の測定: Versant English Test・Versant Writing Test・Oxford Quick Placement Test などからの知見」, 日本英語教育学会第46回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2016年3月13日. 原田康也・鈴木正紀, 「多様な英語能力の測定: Versant English Test・Versant Writing Test・Oxford Quick Placement Test などからの知見」, 日本英語教育学会第46回年次研究集会: 言語テストと高大接続, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2016年3月13日.
- 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者のインタラクション (相互行為) を通じた自律的相互学習プロセス解明に向けて」, 日本認知科学会第32回大会(OS10)オーガナイズドセッション: 相互作用 (インタラクション) を通じた英語の学習効果に関する認知科学的観点からの検討, 千葉大学, 2015年9月18日.
- 原田康也・首藤佐智子・森下美和, 「インタラクションを通じた自律的相互学習: マイクは発言者としての役割を自他に明示することで学習者の発言を促す」, 第107回次世代大学教育研究会, 次世代大学教育研究会主催, NPO法人人材育成マネジメント研究会・明治大学サービス創新研究所, 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス, 2015年7月11日.
- 原田康也・森下美和, 「インタラクションを通じた英語の自律的相互学習: カメラは今・ここを映すことで学習を促す」, 日本英語教育学会第45回年次研究集会: 外国語学習の言語学的基盤, 日本英語教育学会主催・早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2015年3月7日.
- 原田康也・森下美和, 「共同学習による同調と自動化: 応答練習におけるプロトコルの創発」, 第101回次世代大学教育研究会, 琉球大学法文学部, 2015年1月10日.
- 原田康也・森下美和, 「大学英語教育における知識と運用の統合: 文法知識の運用課題と実体的コミュニケーションの場の提供」, 電子情報通信学会思考と言語研究会, 大阪電気通信大学寝屋川駅前キャンパス, 2014年12月20日.
- 河村まゆみ・遠藤智子・横森大輔・原田康也, 「自律的英語学習環境におけるプロトコルの創発」, 場の言語学ワークショップ: コミュニケーションの創発, 早稲田大学情報教育研究所・早稲田大学言語情報研究所共同主催・日本英語教育学会共催, 早稲田大学8号館3階会議室, 2014年6月22日.
- 山田寛章・石井雄隆・原田康也, 「日本人大学生の英語作文からの特徴量の自動抽出に向けて: 予備実験と今後の課題」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学, 2014年6月21日.

これまでの関連発表

- Tomoko Endo, Daisuke Yokomori, Mayumi Kawamura, Masanori Suzuki & Yasunari Harada, ""That's all. Thank you.": A case of naturally-occurring cooperative learning in Japanese EFL classrooms, " Workshop on Linguistic Analyses of Foreign Language Learning: Automatization in Real-Time Comprehension and Production in conjunction with The 15th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing, Waseda University, 2013年12月15日.
- 原田康也・森下美和, 「日本人英語学習者の言語処理と言語運用能力: Versant English Test のスコアを中心に」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・MAPLL 2013 共催研究会, 関西学院大学梅田キャンパス, 2013年8月3日.
- Yasunari Harada, Mayumi Kawamura, Daisuke Yokomori & Masanori Suzuki, "Data Collection and Annotation of Relatively Spontaneous and Relatively Extended Elicited Utterances by English Learners in Undergraduate Japanese Courses, " International Symposium Commemorating the Completion of the ICNALE Project Learner Corpus Studies in Asia and the World 2013 (LCSAW2013), Kobe University, 2013年3月24日.
- Yasunari Harada, Mayumi Kawamura, Daisuke Yokomori & Masanori Suzuki, "Data Collection and Annotation of Spontaneous Utterances by Japanese Learners of English, " KACL 2012 (2012 International Conference for the KACL), Pusan National University, 2012年12月11日.
- Yasunari Harada, Mayumi Kawamura & Masanori Suzuki, "Data Collection of Spontaneous Extended Utterances by Japanese Learners of English, " The 13th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing: Corpora, Annotation and Human Language Processing, 早稲田大学14号館, 2012年12月1日.
- 鈴木正紀・原田康也, 「大学新入生の英語リスニング・スピーキング熟達度の定点観測」, 電子情報通信学会思考と言語研究会・早稲田大学情報教育研究所共催, 早稲田大学8号館, 2011年11月26日.
- Mayumi Kawamura, Daisuke Yokomori and Yasunari Harada, "Data-collection, Annotation and Analysis of Relatively Spontaneous Utterances of Japanese Undergraduate English Learners, " 研究集会「英語コミュニケーション能力の育成と英語処理の自動化: 授業実践からテストまで」, 日本英語教育学会・早稲田大学情報教育研究所共催, 早稲田大学8号館, 2011年9月17日.
- Masanori Suzuki and Yasunari Harada, "Toward a Longitudinal Observation of Oral English Proficiencies among Japanese Undergraduate English Learners, " 研究集会「英語コミュニケーション能力の育成と英語処理の自動化: 授業実践からテストまで」, 日本英語教育学会・早稲田大学情報教育研究所共催, 早稲田大学8号館, 2011年9月17日.
- 原田康也・鈴木正紀, 「大学新入生の英語リスニング・スピーキング熟達度の定点観測に向けて」, 電子情報通信学会思考と言語研究会(TL), 機械振興会館 地下3階6号室, 2010年5月28日.

これまでの関連発表

- 前坊香菜子・原田康也, 「外国語の授業における実態的コミュニケーションの創出: 足場かけとしての『場』づくり」, 第42回次世代大学教育研究会, 沖縄県男女共同参画センター「ていえる」5階特別会議室, 2010年1月9日.
- 河村まゆみ・前坊香菜子・楠元範明・前野譲二・鈴木正紀・原田康也, 「大学新入生の英語口頭表現能力の定点観測に向けて: 発話データの制限的共有と分散処理を中心に」, 第12回CMS研究会, 情報処理学会「教育学習支援情報システム」研究グループ(CMS研究会)主催, 日本女子大学自由キャンパス新泉山館1階大会議室, 2009年9月17日.
- 原田康也・前坊香菜子・河村まゆみ・前野譲二・楠元範明・鈴木陽一郎・鈴木正紀, 「大学生の英語口頭表現活動の音声ドキュメント化に向けて」, 第3回音声ドキュメント処理ワークショップ, 豊橋技術科学大学メディア科学リサーチセンター主催, 情報処理学会音声言語情報処理研究会共催, 豊橋技術科学大学, 2009年2月28日.
- 原田康也・前坊香菜子, 「学びあいをデザインする: 自律的相互学習のための英語授業のデザイン」, 情報コミュニケーション学会第4回研究会, 情報コミュニケーション学会主催, 明治大学情報基盤本部後援, 明治大学駿河台キャンパス12号館, 2008年11月8日.
- Yasunari Harada, Kanako Maebo, Mayumi Kawamura, Masanori Suzuki, Yoichiro Suzuki, Noriaki Kusumoto, & Joji Maeno, "Toward Construction of a Corpus of English Learners' Utterances Annotated with Speaker Proficiency Profiles: Data Collection and Sample Annotation," The 3rd International Conference on Large-scale Knowledge Resources (LKR 2008), Tokyo Institute of Technology, 2008年3月4日.
- 河村まゆみ・原田康也・前坊香菜子・楠元範明・前野譲二, 「VALIS: 発話データの制限的共有と分散処理に向けて」, 情報処理学会コンピュータと教育研究会 CE-93 (22), 社団法人情報処理学会, 東京農工大学, 2008年2月17日.
- 原田康也・前坊香菜子・河村まゆみ・鈴木正紀, 「VALIS: 英語学習者のプロフィールと発話データの収集」, 電子情報通信学会思考と言語研究会(TL)・早稲田大学総合研究機構情報教育研究所共催研究会, 早稲田大学国際会議場第三会議室, 2007年11月16日.
- 原田康也・前坊香菜子・河村まゆみ・前野譲二・楠元範明・鈴木陽一郎・鈴木正紀, 「学習者主体の英語学習環境の構築と学習者プロフィール・発話データの収集」, 平成19年度情報教育研究集会, F4-5, 大阪大学主催, 文部科学省・国立大学情報教育センター協議会・独立行政法人メディア教育開発センター後援, 2007年11月10日.
- 原田康也・前坊香菜子・河村まゆみ, 「VALIS: 英語学習者発話データの書き起こし」, "情報処理学会コンピュータと教育研究会 CE-90 (1), 社団法人 情報処理学会, 独協大学, 2007年7月7日.
- 原田康也・前坊香菜子・河村まゆみ・前野譲二・楠元範明・鈴木陽一郎・鈴木正紀, 「VALIS: 学習者プロフィールに基づく学習者音声コーパス構築を目指して」, 情報処理学会コンピュータと教育研究会 CE-88 (24), 社団法人 情報処理学会, 一橋大学, 2007年2月17日.
- 原田康也・辰己丈夫・前野譲二・楠元範明・鈴木陽一郎, 「対面応答を重視した英語学習活動と発話収録装置の試作」, 平成17年度情報処理教育研究集会, 教育学習支援システム(3)-5, 九州大学主催, 2005年11月5日.
- 原田康也・辰己丈夫・前野譲二・楠元範明・鈴木陽一郎, 「対面での応答を重視した英語学習活動と発話収録装置の試作と試用」, 情報処理学会コンピュータと教育研究会 CE-80 (4), 社団法人 情報処理学会, 獨協大学, 2005年6月18日.
- Jared Bernstein & Yasunari Harada, "Automatic Measurement of Spoken English Skills: consistent benchmarks for English learning," 大学英語教育学会第41回全国大会, 41th Annual Convention of the Japan Association of College English Teachers, 青山学院大学, 2002年9月7-9日.
- Jared Bernstein・原田康也, 「電話による英語口頭表現力の自動診断テスト PhonePass SET-10: 動作原理・試用結果・今後の可能性」, シンポジウム: 21世紀型情報教育の可能性を求めて, 早稲田大学メディアネットワークセンター主催, 早稲田大学14号館 AV ホール, 2002年1月26日.
- Yasunari Harada & Jared Bernstein, "Potential Impact of an Automated Proficiency Test of Spoken English," Language Testing in Asia, PAC3 at JALT2001: A LANGUAGE ODYSSEY, Japan Association for Language Teaching, Kitakyushu International Conference Center, Kokura, Japan, 2001年11月24日.
- 原田康也・楠元範明・寄高秀洋・藤田真一・Jared Bernstein・阪原淳, 「PhonePassを利用した口頭英語の運用能力測定に基づく学習効果の判定」, 第15回私情協大会事例発表, 社団法人私立大学情報教育協会, アルカディア市ヶ谷, 2001年9月12日.
- 原田康也・楠元範明・寄高秀洋・藤田真一・Jared Bernstein・阪原淳, 「総合的運用力向上を目指した英語授業実践と口頭英語実力テスト」, 第9回情報教育方法研究発表会, アルカディア市ヶ谷, 社団法人私立大学情報教育協会, 2001年7月7日.

教員が学習データを活用するために必要な機材と時間の確保

- 誰か考えているのか？

2021年2月26日金曜日 18:45-19:45

The Naked Sun and the Naked Lunch

～教育と研究における対面接触
回避とオンライン化の影響～

日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究：
オンライン学習における学生間のインタラクション

原田康也（早稲田大学）

いくつかの疑問

- なぜこんなに疲れているのだろうか？
 - オンラインの学内会議に出るととても疲れる。
 - オンラインで授業を行うととても疲れる。
 - オンラインの国際会議に参加するととても疲れる。
- なぜこんなにやる気が出ないのだろうか？
 - 春学期授業開始前の努力が無駄になっている。
 - 春学期授業開始前の努力で授業設計がダメになった。
- いつになったら、以前のような世の中になるのだろうか？
- いつか以前のような世の中になるのだろうか？

在宅研究・在宅授業

- 2019年4月初めにオンライン授業という方針
- 直後にキャンパスロックアウト・在宅指示
- ノートパソコンのみで11コマの授業オンライン化
- サーバやネットワークの状況が見通せない
- オフライン作業を中心に課題を再設定
- 受講生が悪い習慣を身に付けて修復不能
- 定年退職まで数年の時点で在宅になったため、研究室の資料・機材を処分する気分が強まる。
- 自宅の研究環境構築に研究費等が使えない部分が多い。

会議等もオンラインが中心

- 機微な内容の会議は対面とせざるを得ない。
- 会議中の発言が長くなる。
- 研究費で購入した機材を会議で使用することが当然のように期待されている。
- 出席すべき会議が多すぎる。
- 重複ばかり。発言の機会がない。うっせえわ

出張に出られない

- 非常事態宣言のため春学期中は出張に出られない。
- 夏休みがほとんどない。
- 9月に入試があるため、終了するまで動けない。
- おいしいものを食べる機会がない。
- 9月後半から10月にようやく少し出張に出る。
- 12月から出張に出られない。
- 2月に入試があるため、1月から出張に出られない。
- 非常事態宣言のため出張に出られない。

自宅環境を整え始める。

- 6月にDELL の 27 インチモニターを2台購入
- 9月に1台追加購入
- 1月に2台追加購入
- PC 4 台を利用する環境が少しずつ整い始める。

はだかの太陽

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

- 『はだかの太陽』（はだかのたいよう、The Naked Sun）は、[アイザック・アシモフ](#)の[SF小説](#)、[推理小説](#)。
- [1956年](#)に雑誌連載され、[1957年](#)に刊行された。
- 『[鋼鉄都市](#)』の続編にあたるアシモフ2作目の[ロボット](#)長編であり、やはりSF [ミステリ](#)の傑作として知られる。

書誌情報

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

- 裸の太陽、伊藤照夫（[都筑道夫](#)）訳、[講談社サイエンス・フィクション・シリーズ](#)、1958年11月
- 裸の太陽、[常盤新平](#)訳、[ハヤカワ・SF・シリーズ](#) 3090、1965年7月
- ロボット国ソラリア、[内田庶](#)訳、講談社世界の科学名作7、1965年
- はだかの太陽、[冬川亘](#)訳、[ハヤカワ文庫SF](#)、1984年
- はだかの太陽 新訳版、[小尾芙佐](#)訳、[ハヤカワ文庫SF](#)、2015年

Amazon.co.jp のコメント

- <https://www.amazon.co.jp/%E3%81%AF%E3%81%A0%E3%81%8B%E3%81%AE%E5%A4%AA%E9%99%BD%E3%80%94%E6%96%B0%E8%A8%B3%E7%89%88%E3%80%95-%E3%83%8F%E3%83%A4%E3%82%AB%E3%83%AF%E6%96%87%E5%BA%AB-SF-1-42-%E3%83%8F%E3%83%A4%E3%82%AB%E3%83%AF%E6%96%87%E5%BA%ABSF/dp/4150120072>

- *Tomorrow and Tomorrow*, Mass Market Paperback, January 1, 1961
- by [Hunt Collins](#) (Author)
- 果てしなき明日 (1959年) (ハヤカワ・ファンタジイ) – 古書, 1959/1/1
[ハント・コリンズ](#) (著), [中桐 雅夫](#) (翻訳)

裸のランチ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

- 原作を忠実になぞったものではなく、[ウィリアム・バロウズ](#)の作品を元に再構成された、[デヴィッド・クローネンバーグ](#)監督のオリジナル作品というべきものとなっている。

SF の予見性

- COVID-19 pandemic の世界は予見されていた状況である。
- 新型コロナウイルス感染拡大がいつか収束して旧来の「平和な日々」が戻ると期待するのはやめよう。